

ヒラメの喫食量と発症

国立感染症研究所
感染症情報センター
八幡 裕一郎

対象と方法

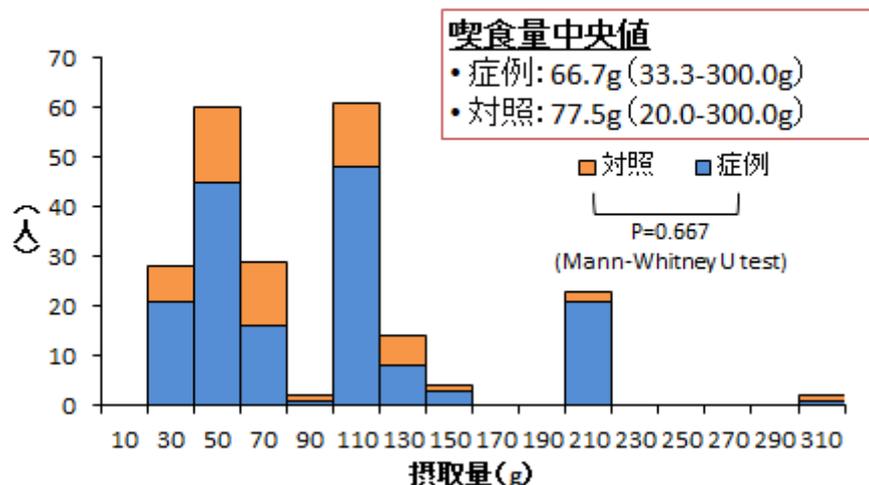
- 対象

- 2010～2011年に発生したヒラメを喫食したクドアによる食中毒事例

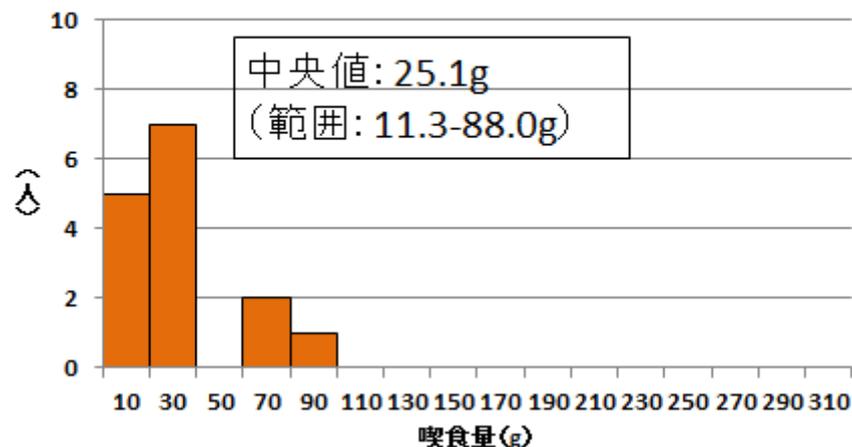
- 方法

- クドアの孢子数とヒラメの喫食量よりクドア摂取量推定
- 前年度算出した推定閾値と事例の摂取量の比較

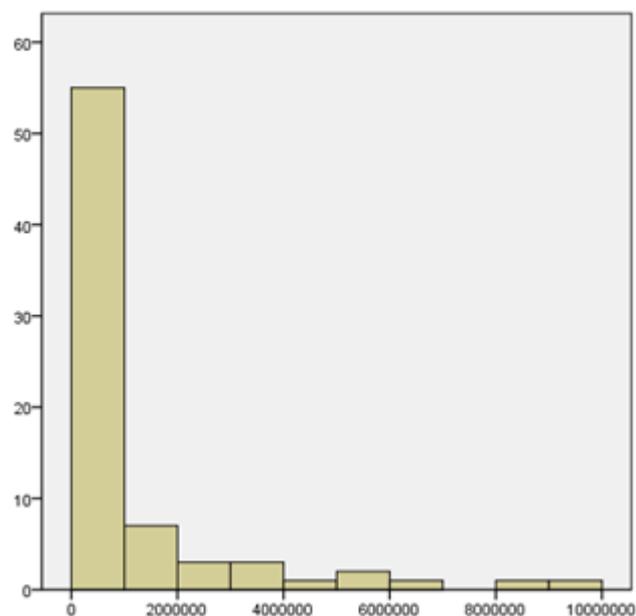
ヒラメの喫食量(2010年事例)



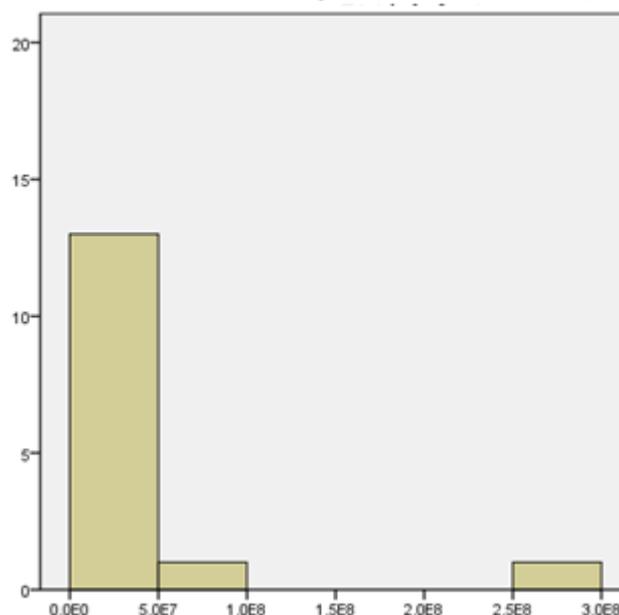
ヒラメの平均喫食量(2011年事例)



グダアの孢子数(2010年事例)

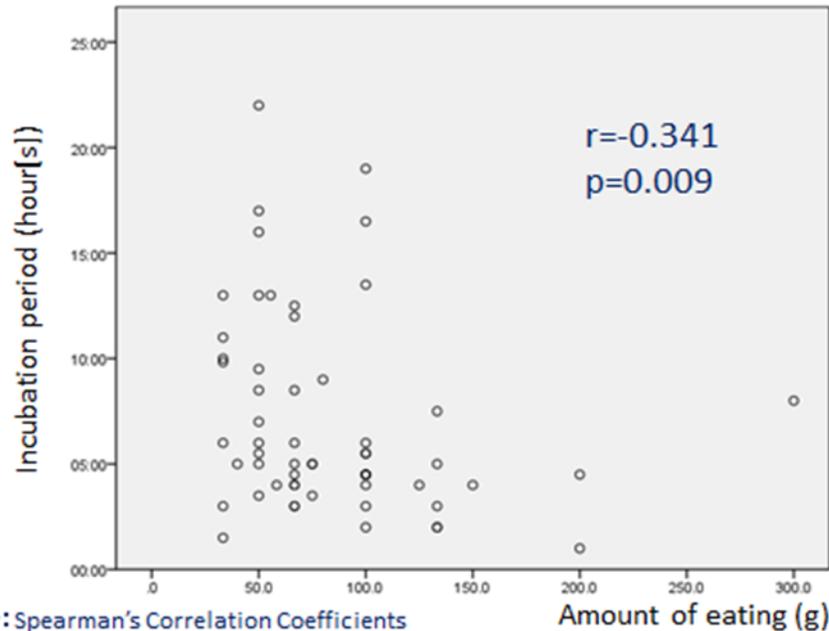


グダアの孢子数(2011年事例)



ヒラメ喫食と潜伏期・下痢回数

ヒラメの喫食量と潜伏期

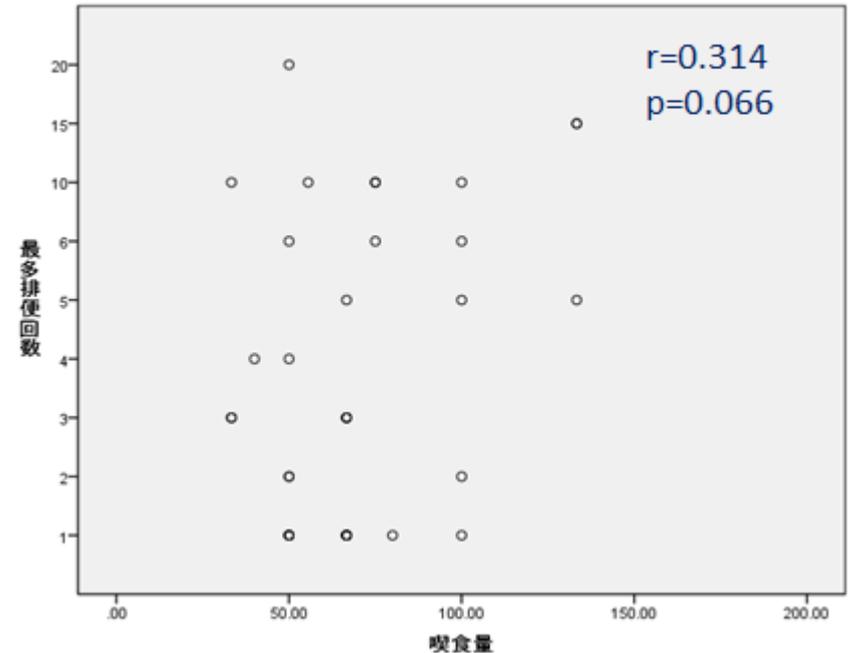


潜伏期

中央値: 5.0時間

(範囲: 3.5-19.0時間)

ヒラメ喫食量と下痢回数



排便回数

(発症後24時間以内)

中央値: 3.0回

(範囲: 1.0-20.0回)

クドア孢子数と喫食量と発症

	クドア孢子数	ヒラメ喫食量	クドア摂取量
2011年事例			
孢子数最小値	9.4×10^5 個/g	60.0g	5.6×10^7 個
		70.0g	6.6×10^7 個
		88.0g ^{a)}	8.3×10^7 個 ^{a)}
孢子数中央値	1.1×10^7 個/g	60.0g	6.6×10^8 個
		70.0g	7.7×10^8 個
孢子数最大値	2.0×10^8 個/g	60.0g	1.2×10^{10} 個
		70.0g	1.4×10^{10} 個
2010年事例 (7.2×10^7個以上で発症と推定)			
	2.2×10^6 個/g	33.3g(最小値)	
	1.1×10^6 個/g	66.7g(中央値)	
	2.4×10^5 個/g	300.0g(最大値)	

a) 食中毒事例の喫食量

まとめ

- クドア孢子数:ヒラメの個体差あり
- ヒラメの喫食量:ヒトまたは事例により異なる
- ヒラメのクドア汚染による食中毒事例発生
 - クドアの汚染度高い:少量のヒラメ喫食で発症
 - クドアの汚染度低い:ヒラメ喫食量多いと発症
 - ヒラメの喫食量とクドア孢子数(汚染度)が発症に関連
- ヒラメ喫食量:増加
 - 潜伏期が短くなる
 - 下痢回数が多くなる
- 公衆衛生上の対策
 - クドア孢子の汚染度が低いヒラメの流通が重要